

ランチボックス」など、弁当ということを前面に押し出してはどうか？（委員）

⇒ランチボックスのおかず3品のうち、主菜を保温食缶で対応するモデル実施を3校で行った。アンケートでは、6割以上が「満足」「やや満足」と好評であった。一方で、準備に時間がかかるという課題が見えた。また、新たに、親子調理方式（小学校の給食室で作ったものを隣接の中学校へ提供）を実施しており、今後も温かい食事提供に向けて考えていきたい。ネーミングについては、ランチボックスという言葉を使いながら、我々としては中学校給食が選択制で喫食者の肩身が狭いということがないように。ランチボックスのリニューアル等で喫食率は30%から40%へ上がった。引き続き、喫食率向上にむけて取り組んでいきたい。（事務局）

（2）「市民の食育に関するアンケート調査」の結果と数値目標の評価

・事務局から、資料4、資料5に基づいて説明

○ 質問・意見等

①アンケートで朝食を食べない理由を聞いているが、「親が食べないから自分も食べない」というケースも聞く。その場合は「その他」に入るのか？（委員）

⇒「朝食を食べる習慣がない」「朝食が用意されていない」や「その他」に含まれると思われる。（事務局）

⇒朝食欠食の理由は本人の意志だけではなく、家庭環境にも大きく影響を受ける。友人の話聞いてようやく自身の状況が他と異なることに気づくケースもある。各家庭の状況を知るために、「親が食べないから自分も食べない」という項目を追加してはどうか？（委員）

⇒項目はどこかを参考にしているのか？（委員）

⇒農林水産省の「食育に関する意識調査」を参考としている。（事務局）

⇒他府県や国の事例を参考に、項目内容を再検討していただきたい。（委員）

②朝食を作っているのは母親とは限らない。誰が朝食を作っているかを聞いてもよいのではと思う。また、先日、こども食堂を開催した際に、手伝ってくれた女子大生が1日1食しか食べておらず、残った料理を朝食にしようと言っていた。コロナの影響で大学生は困っているの、フードドライブの活用など何か支援が行き届いてほしいと願う。（委員）

③大学の授業で朝食を食べない理由についてアンケートをとるが、ほとんどの子が夜にアルバイトをしており夜遅くに夕食を食べるため、朝はお腹が空いておらず食欲がないため食べない。アルバイトをしなくてはいけない状況なので生活リズムを変えるのは難しい。コロナ禍で大学生の食環境も変わってきている。前期はリモート授業となり、特に下宿で誰とも会わず、食べる気もがしないというケースが何件かあった。大学生に限らず、ひとり暮らしの高齢者などに対して、精神的・社会的なケアの必要性を感じている。（委員）

（3）令和2年度「市民の食育に関するアンケート調査」の実施

・事務局から、資料6、7に基づいて説明

○ 質問・意見等

①調査対象に外国籍の方を除くのはなぜか？コロナで外国籍の留学生が帰国できず、フードバンクを利用しているケースもあるので、状況を把握すべきではと思う。（委員）

⇒国民健康・栄養調査で外国籍の方を除いているのが付随しているかと考えられるが、本市は外国

籍の方も多く課題もあるため、調査対象に含めるべきか検討する。(事務局)
⇒市で実施している他のアンケート調査も踏まえて検討いただきたい。(委員)

(4) (仮称)「神戸市食育推進計画(第4次)」策定のスケジュールの変更と計画体系の検討

・事務局から、資料8、9、10に基づいて説明

○ 質問・意見等

①第3次計画の柱Ⅰの2について、第4次計画では施設別の項目だてとなっており、第3次計画のほうが全体の食の大切さが伝わり、わかりやすいと思う。(委員)

⇒第4次計画の柱Ⅰの3のみ、下位項目がない。今後加えるのか?(委員)

⇒再検討する。(事務局)

②国の計画ではSDGsへのコミットメントが大きな要素として入っており、それを受けて第4次計画の3つの観点に「持続可能な食を支えるための食育」を入れたと思われる。内容の中では柱Ⅱに以前から入っており今後も継続されると予測できるが、SDGsの達成に向けて一番弱い部分は「消費者への到達」である。一人ひとりが自分たちの食生活が持続可能なものにどのようにつながっているか意識し、ライフスタイルを変革していくことが重要となる。そのため、3つの観点到に明記するだけでなく、「持続可能な」または「エシカル消費」など具体的な行動につながる言葉を具体的取組の中に盛り込んだほうが、自分が何をすべきか消費者に伝わりやすいと思う。また、デジタル化について、若い世代はホームページすら見ない。コロナ禍で、オンラインでの双方向のやりとりの簡便性を一般的に感じている。特に大学生はオンライン授業を通してオンラインに対するハードルが下がっていると思う。そこを上手く活用していくのがよいと思う。農業体験など現地での体験が難しい状況となっている一方で、オンラインを活用することで今まで参加できなかった人への拡充や、オンライン料理講座では実際に家で体験しながらでき、運営側と参加側双方にとってとても有効だと思う。昨年度の市民アンケート調査では、食育の取組に参加したことがないとの回答が7割以上あったが、メディアや新しい方法を活用して裾野を広げ、特別な環境に出なくても神戸の食育を実践していると思えるような施策を展開することで、当事者意識が芽生えると思う。(委員)

③これからの子どもたちに色々な経験をさせてあげたいが、様々な事業が停止しており、今後どのようにしていけばよいかと思うばかりある。また、計画の内容が難しい。(委員)

⇒食育計画は市民のためにあるので、誰が見ても分かりやすく行動に移しやすい内容にしてほしい。(委員)

④第3次計画の柱Ⅰの2のほうがわかりやすい。第4次計画は抽象的でわかりづらい。(委員)

⇒施設・学校ごとの区分は、市民にとってはとっつきにくいかもしれない。(委員)

⑤事業を停止せざるを得ない状況となったが、要望の熱いところへは実施することとなった。今後どのようにしていけばよいか心配ばかりである。計画内容については分かりづらい部分もある。(委員)

⑥第4次計画の柱Ⅰの1(4)職場における食育の取組について、従業員食堂でも配慮していかな

ければいけないと感じた。また、神戸マイスターとしては、(5) 地域における食を通したコミュニケーションの推進について、今後、コロナと共生していくなかでこれまでと違ってハードルが高い部分が出てくる。特に、食育体験などの経験の機会が難しくなっている。そのようななかで、安心・安全を確保のうえで色々な取組が必要と考える。(委員)

⑦小学校では、一番楽しい時間だった給食が、会話できず、量の調整もできなくなり、子どもたちにとって苦痛となっている。朝食喫食の高さについては、チョコレートやアイスクリームを朝食と捉えている子もいるなど、朝食への理解度が様々あるのが現状である。朝食の内容について、深く探るとこのようなことが出てくるのではないかと思う。食器を学校でしか使用しない家庭もある。

また、第4次計画の柱Ⅰの2について、施設・学校ごとの特色は出ると思うが、縦のつながりという面では分かりづらい。食育の体験については、本校は大規模校のため工場見学などができないなかで、教育委員会のおにぎりプログラムを実施していただいているが、体験の機会が少なく、子どもたちの未来の姿が心配である。(委員)

⑧デジタル化といっても、情報発信の方法をデジタル化するのか、事業自体をデジタル化するのかなど色々な段階がある。デジタルコンテンツを活用する際は、そのコンテンツが取りやすいところ(例：ホームページ上の分かりやすいところ)にあれば活用されやすい。リモート授業をしても、最終的には人とのコミュニケーションを求めていることを実感した。体験に勝るものはない。体験に持っていくための基礎知識をデジタル化すると、受け手側は簡単に取れる。最終的にはコミュニケーションをとることを忘れずにデジタル化をしてほしい。また、その際は情報を更新するシステムづくりに留意してほしい。(委員)

⑨コロナの時代が続いていくなら、食生活がどのように変化し課題が出てきたかを考えてもよいと思う。そのときに、食生活として気をつけるべきことは何か。例えば、そういう時代であっても、3食きちんと食べて3密に気をつけながら笑顔で食事をするのが大事だと思う。食事をするためには動くことも大事である。また、手洗い・マスクの徹底など、食に係る考え方の変化が求められている。神戸市の視野が入ってこれば面白いと感じる。(委員)

⑩つどいの場が再開され、外へ行くきっかけができてよかったとの声を聞いた。特に高齢者は、直接、誰かの話を聞くことが元気づくりにつながる。オンラインも大事だが、つどいの場を広く開催できるようなスタンスをとってほしい。(委員)

⑪誰に何を発信するかでオンライン・オフラインを使い分けていくべきだと考える。3つの観点にデジタル化を入れるのは是かどうか。オフラインのものをどのように展開していくかは、具体的内容で示すことが重要だと思う。また、今年度行うアンケート項目で、コロナにより食生活が悪くなった場合の具体的事例を聞いているが、食意識が望ましいほうに転換している例もある。例えば、地元のもの的大事という意識の向上や応援消費(困った生産者を助ける)、家庭料理の見直しが起こっている。コロナによる変化を自由記載で聞いてもよいのではと思う。(委員)